

第43回全国公立小中学校事務研究大会（鳥取大会）参加報告

富谷町立日吉台中学校 主査 相澤隆佳

大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」動きだそう！今ここから
～チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム～
特集テーマ「教育課程の実施と学校事務」

目的 いま学校には、より質の高い教育を展開するために、総合力を向上させることが求められている。新学習指導要領の全面实施を機に、教育課程の編成・実施を教員とともに実現する事務職員の新たな役割を考え、学校事務の機能や在り方を追求する。

日時 平成23年7月27日（水）～7月29日（金）

会場 とりぎん文化会館他

文部科学省行政説明 文部科学省大臣官房審議官 徳久 治彦 氏

記念講演 「地域主権時代の教育と学校経営」 総務大臣 片山 善博 氏

全体研究会

「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

基調講演 「カリキュラムマネジメントと事務職員」

岡山大学大学院教育学研究科 准教授 高瀬 淳 氏

パネルディスカッション

パネリスト

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 日渡 円 氏

伯耆町教育委員会 参事兼指導主事 小澤 敦彦 氏

鳥取市立北中学校 校長 木下 公彦 氏

コーディネーター 全事研 研究部長 風岡 治 氏

参加分科会 本部研究分科会（全事研本部）

「学校力の向上を図るカリキュラムマネジメントの展開と学校事務」

—教育課程と条件整備を結びつける事務職員の役割—

助言者・シンポジスト 国立教育政策研究所 総括研究官 藤原 文雄 氏

シンポジスト 神戸大学 企画部企画課長 尾川 正洋 氏

シンポジスト 徳島県阿波市教育委員会 教育次長 藤本 功男 氏

詳しいことは ↓鳥取大会ホームページ↓

<http://tottorizenjiken.web.fc2.com/>

研修会の中から分科会、全体研修会のパネルディスカッションについて書き出してみました。

☆分科会について感じたこと。

まず午前中に研究部長より概要説明の後テーマに基づく3つの提案が行われ、
午後から4名のシンポジストによる討議が行われました。

その中で特に私がいろいろ感じたところは、事務職員の能力開発やキャリア形成についてシンポジストの
国立教育政策研究所 総括研究官 藤原文雄先生からの話で

事務職員の4層と役割例、キャリア段階における発達課題例、キャリアに応じた事務職員の行動指標例な
どを参考に、仕事の定義を自分で考えられるようになることが必要！ といったことや

忙しくてこれ以上事務の合理化はできないと思っていないだろうか
まだまだやれることはあるのではないかとか

自分たちのマネジメントのレベルを上げることも必要だが、
校長先生が事務職員をその年代に応じてどのように育てたいかといったマネジメントについてどのよう
に考えているのか校長先生をシンポジストにしてお話を聞いてみてはどうかなど、今まで考えもしなかつ
たが、そうだなあと思うことをお話ししていただき、いろいろ考えさせていただきました。

☆最終日のパネルディスカッションについて。

※パネラー3人に共通しているのが学校はもっと地域との関わりをもっと持つこと。

木下先生 学校作りは地域作りである。

小澤先生 学校は地域貢献が必要である。子ども達は社会の一員として成長。

日渡先生 学校は地域と対応する力はあるか？ 職員の認識はどうか？

しっかり地域と向き合う必要がある。

※ビジョンの実現のため事務職員に期待する役割について。

木下先生 21世紀を作る子どもを育てる学校に勤めるプライドを持ち、行政の専門家としてやっていって
欲しい。

小澤先生 教員とは違う別の職種の違う視点、アイデアで学校経営に参画して欲しい。

地域に開かれた学校として、地域の人をホスピタリティで迎えて欲しい（学校の敷居が高いと
いうことを取り除けるように）。

日渡先生 学校をまず開き、教育課程も開き、どう育てたいかを地域へ示すことが必要。

これから、地域との接点を担うのは事務職員である。

今後、学校経営免許状ができる？ その際には事務職員は積極的に取得すべきである。

※パネルディスカッションのまとめ。

木下先生 「現状維持は後退である」。校長と一緒に新しい学校教育の在り方を模索して欲しい。そのため
には勉強が不可欠。何かアクションを起こす場合に、知識を持って行るのが大切。しっかり根
拠を示せる力を持って欲しい。

日本の未来を背負う子ども達を教育する最前線に立つ教職員という自覚と使命感、誇りを持っ
て校長先生と共にがんばって欲しい。

日渡先生 新しい学校を地域の人と共に協力して作るため、学校の中では事務職員が真っ先に気づき、教
職員へ色々なことを伝えていって欲しい。

第43回 全国公立小中学校事務研究大会（鳥取大会）参加報告

山元町立山下小学校 主事 佐々 佳紀

1 大会テーマ 「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」

サブテーマ 動き出そう！今、ここから～チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム～

特集テーマ 教育課程の実施と学校事務

2 期日 平成23年7月27日（水）～7月29日（金）

3 文部科学省行政説明

4 記念公演 「地域主権時代の教育と学校経営」 総務大臣片山善博（前鳥取県知事）

5 全体研究会

テーマ 子どもの豊かな育ちを支援する学校事務

6 参加分科会

第1分科会 「つなげよう！実践と協働の力」

（熊本支部） —教育課程と学校事務を考える—

1) 福岡大会より見えてきた課題

なぜ「学校財務」が根付かないのか ～学校と学校以外の行政機関の意識の差を調査～

①事業（目標）の認知度

学校以外 住民のニーズに基づいて行う

⇔

学校 事業とは何なのか

事業に対する意識が不明確

②予算の計算方法

学校以外 住民ニーズに合わせて行う

⇔

学校 前年踏襲、機械的配当

処理する人で完結、低い達成感

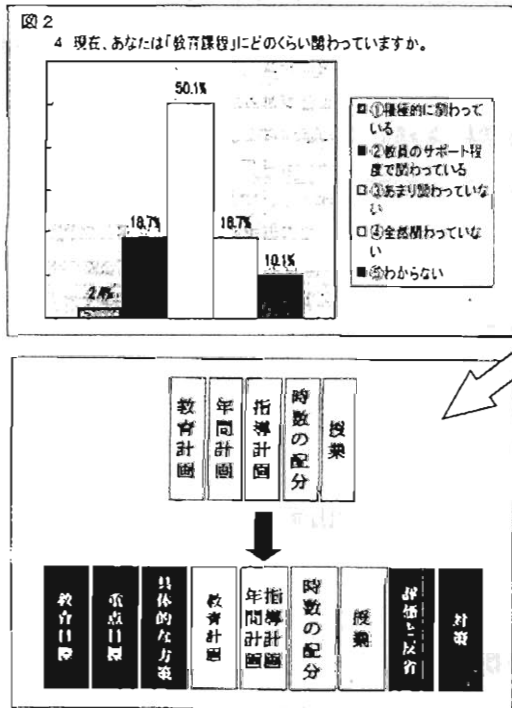
学校における事業（目標）とは、教育課程の実施である。

教育活動を意識した事務（業務）を行うためには、

より明確な学校目標（教育課程）の提示 & すべての教職員が共有することが必要。

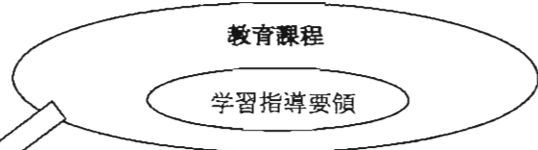
それでは学校における事業である教育課程とは何か → 今回の研究発表へ

2) 事務職員は教育課程にどのくらい関わっているか ～意識調査～



約7割の事務職員が教育課程に関わっていないと認識

教育課程 ≠ 学習指導要領



教育課程
 学校で行われている、目標を達成するための全ての教育活動
 (直接的教育活動 + 間接的教育活動)
 教 員 事務職員等

仮 説

実は、私たちは既に教育課程と深く関わっているのではないか (意識変容)

3) 仮説の検証 ～小さな実践から始めよう (行動変容)～

ヒト・モノ・カネの観点で授業参観

→ **事務職員の関わりを再確認**

小さな実践の勧め

校内研修への参加 → 授業参観シート

情報共有 (発信) → 壁新聞、備品一覧表

○授業参観シート

3年生理科

物	状態	人
不便なものはないか	気温 室温	発表
ホワイトスクリーンとム	28℃	顔色や様子
ズルり	照明	
学校にあるのに使えていないものは?	0000	姿勢
貼れるスクリーンがある	懐・天井	ともし思っている
	掲示物の高さはどうか?	机・椅子の高さ・向きは良いのか?
	備品の配列の位置	
	机に問題なし	
適切な使われたか	備品に問題はないか	管理職員の意識
PC・プロジェクター	テレビの音が不安定な感じ	広い机のたのしみうどおりに置いている
し通切たと思われる	床面	

4) 今後の課題

①直接的教育活動に対する知識の不足 → 体系的な研修が必要

②事務職員だけで完結してはいけない → 校長会等も巻き込んだ活動へ

福岡大会 教育課程を明確にし、職員間で共有する必要性。

鳥取大会 事務職員も教育課程に関わっている意識で業務を行う必要性。

授業を通して教員と協働し、よりよい授業づくり (学校づくり) へ。

実践の結果については、4年後の熊本大会で発表を行う予定です。

第43回全国公立小中学校事務研究大会（鳥取大会）参加報告

名取市立みどり台中学校 昆清悦

大会テーマ 「子どもたちの豊かな育ちを支援する学校事務」
動きだそう！ 今ここから
— チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム —
特集テーマ ～教育課程の実施と学校事務～

目的 いま学校には、より質の高い教育を展開するために、総合力を向上させることが求められている。新学習指導要領の全面実施を機に、教育課程の編成・実施を教員とともに実現する事務職員の新たな役割を考え、学校事務の機能やあり方を研究する。

期日 平成23年7月27日（水）～7月29日（金）
場所 とりぎん文化会館 他

- 1 文部科学省行政説明：文部科学省大臣官房審議官 徳久治彦氏
「東日本大震災における取り組み」「35人以下学級の推進」「学校マネジメント」「学習指導要領について」「事務職員のみなさんへ」といった内容で説明がありました。
- 2 記念講演：『地域主権時代の教育と学校経営』
総務大臣 片山善博氏（前鳥取県知事）
「地域主権」「日本の国是（日本がどうあるべきか）」「教育について」「学校のマネジメント」「今後の展開と学校運営について」等の内容で講演されました。両親が教員とのことで、学校について詳しく興味があり、その興味が教員以外の部分にもかなり向けられているようでした。
「地域主権」は、地域のことは地域に住んでいる人が責任を持って決めること、地域でできないことは、都道府県が、さらには国が責任を持つことという内容でした。また、これからは「まちがない科学」「しいたげられない文化」「清潔で透明な政府」をつくる教育が必要とのことでした。
- 3 全体研究会：基調講演「カリキュラムマネジメントと事務職員」
岡山大学大学院準教授 高瀬淳氏
「豊かな育ち」「公共の精神」といった内容を中心に講演されました。自分の仕事子どもたちの幸せに結びつくということを実感するようとのことでした。

4 第2分科会：「教育課程は日々の実践」 ☆私もキラリ☆
—評価から Step Up—

岡山市支部

岡山市における事務共同実施組織による教育課程の実施についての研究です。岡山市では、平成21年度には全中学校区で事務共同実施が行われ、さらに平成22年度より事務共同実施組織に事務長発令がされています。

午前中は、前岡山市教育委員会審議監だった小野校長先生の基調講演と、岡山市での実践例を、評価アンケート結果を含めて発表がありました。その中では、子供たちのために組織で何かできることはないかということで行われた教職員啓発研修などの実践例が紹介されました。

また、午後からは以下の2点を中心にシンポジウムを行いました。

(1) 勤務校のトータルプロデューサーとしての役割

(2) 岡山型一貫教育と中学校区での事務共同実施と事務長の役割

岡山型一貫教育は、保幼小中を一貫する段階的な取り組みであり、その中においてトータルプロデューサーである事務長を中心とした事務共同実施組織が教育課程の実施に貢献する、というのが基本的な考え方です。

シンポジウムの中で日々の実践について参加者から紹介などがありました。全体的には、どういったことが教育課程に参画することになるのかということと、岡山市での共同実施と事務長制についての話が中心になりました。

教育課程への参画については、「日々行っている仕事が教育課程に参画している」「自分の業務が生きる力を育むことにつながっていくことを意識することが大事である」ということの話がありました。

岡山市での事務長制については、中学校区単位の事務共同実施組織ごとに1名に対して市教委が事務長として発令するものであり、支援・指導・助言といったこと各校の事務職員に対して行うということでした。

5 全体研究会 パネルディスカッション

兵庫教育大学大学院教授 日渡円氏

伯耆町教育委員会参事兼指導主事 小澤敦彦氏

鳥取市北中学校長 木下公明氏

それぞれの立場から、地域と学校の関わり、その中において、違う職種である事務職員の意義などから、今後の学校事務がどうあるべきかなどについて討議されました。学校には「情」と「理」が必要で、「理」は事務職員であるとの話がでました。

第43回全国公立小中学校事務研究大会（鳥取大会）参加報告

大衡村立大衡小学校 主査 三浦 進

- 大会テーマ「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」動きだそう！今ここから～チェンジ・デザイン・ジム&カリキュラム～
特集テーマ「教育課程の実施と学校事務」
- 目的 いま学校には、より質の高い教育を展開するために、総合力を向上させることが求められている。新学習指導要領の全面実施を機に、教育課程の編成・実施を教員とともに実現する事務職員の新たな役割を考え、学校事務の機能や在り方を追求する。
- 日時 平成23年7月27日（水）～7月29日（金）

1 文部科学省行政説明 文部科学省大臣官房審議官 徳久 治彦 氏
「東日本大震災関係の通知文の概要」、「学校現場の負担軽減と学校事務職員について」など。
最後に、「学校事務職員は、校長・管理職の良きアドバイザーとして、また教育行政事務（教育事務）のプロとして、チーム教育（専門性のある者が、各々その業務にあたる）の一員としてご活躍下さい。」

2 記念講演 「地域主権時代の教育と学校経営」 総務大臣 片山 善博 氏

○鳥取県知事時代の働きかけ・提案（教育関係）

- ・学校図書館司書の配置。資格を有する専門の職員。（司書教諭ではなく。）
- ・少人数学級（30人、35人） 県単独で。 ・総額裁量制（10年ほど前）

↓

教育問題を地域で解決できるようになった。

- ・地域で考える力はあるか？ → 教育委員会が考えなければならない！
問題は現場にある！ 課題解決に向けての力量を的確に引き出し、伝えること。

○問題・課題は3つ。

- ①制度上の問題 ②教育委員会・議会の問題 ③学校の伝達力

○最後に

事務のいろんなサポートシステムの構築 → 教員が教育に専念できる環境の整備を。
「子どもたちのために、現場で、力、知恵、改善策を出して！」

3 全体研究会

(1) 基調講演 「カリキュラムマネジメントと事務職員」

岡山大学大学院教育学研究科 准教授 高瀬 淳 氏

(2) パネルディスカッション

パネリスト 兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授 日渡 円 氏
伯耆町教育委員会 参事兼指導主事 小澤 敦彦 氏
鳥取市立北中学校 校長 木下 公彦 氏
コーディネーター 全事研 研究部長 風岡 治 氏

4 分科会討議 第5分科会「教育活動を支援する学校財務」 山口支部

— 知っちよる？ やっちよる？ 考えちよる？ —

○教育活動と学校財務を結びつけることが、学校事務職員の役割の一つ。

単に予算を執行するだけではなく、教育課程に合致した予算編成や教育活動を支えていくための予算の取組みへの実践。

(1) 話題提供（午前部 ニュース形式でのプレゼン）

①学校財務の考え方

- ・学校財務は、我々の仕事の原点。
- ・教育課程を分かった上で、仕事をする、質が変わってくるのではないかと
- ・人、もの、金を明記した年間指導計画

②キャリアステージ（学校財務編）の作成、実践事例

例）授業を参観し、必要な教材教具を確認する。 → 参観し、意見を述べる。

③公費私費負担区分について

・学年会計への指導助言→各学年で取扱いがまちまちにならないように。

④あなたにもできる！実践事例の紹介

・年間指導計画表の確認等 ・備品アルバムの作成 ・じむ伝言板の活用

⑤研究の成果と課題

成果 → ・「教育活動」へ積極的に関わっていきこうとする意欲の向上。

・何かできることから始めようとする意識の変容。

課題 → ・「キャリアステージ（学校財務編）」の改良。

・県全体への普及、実践。問題意識の共有、課題解決への取り組み。

(2) 分科会討議（午後の部 参加者による対面式意見交換会）

①キャリアステージ（学校財務編）について

参加者意見 → ・表には賛成だが、各学校で仕事の状況が異なる。

基礎から必要な学校もある。

・仕事の深さの目安になる。

指導助言 → ・ライフステージは、県→教職員へ 「こうしなさい」

・キャリアステージは、事務から発信 「こうやろう」

・職場内での積極的な働きかけが必要。

②公費私費負担区分について（校内で定めているか？）

参加者意見 → ・学校徴収金取扱要綱の整備、今まさに取り組んでいる。

・私費は法で認められていない経費。法的根拠がないもの。

指導助言 → ・公費私費負担区分表の整備は必要。

負担区分表があれば、悩まなくて済む。考える時間の軽減。

③教育目標実現のための予算編成について

（教育目標等を踏まえて予算編成しているか？）

参加者意見 → ・ビジョンが明確化される。予算の使途が明らか。

・（予算編成しているが）目標等は踏まえていない。

要望や実績ベースで執行。子どもの教育環境整備のため。

・教育目標が曖昧だと、予算に反映させるのは難しいのでは。

指導助言 → ・目標と財務の結び付けは、難しくレベルが高いのでは。

・今何をしたいのか。何が欲しいのか。何ができるのか。

・できることから、少しずつ、やってみてはどうでしょう？

学校事務職員のキャリアステージ（学校財務編）

	採用 18～21歳	5年 経過	10年 経過 30代前半	退職 60歳		
	ステージ	初任期	成長期	発展期	充実期	成熟期
	↑ 主事		↑ 主任主事	↑ 事務主任		↑ 主査
平成十五年山口大会での規定	成長過程	事務職員として採用されて初めて、学校事務とは何かを知る時期です。実務の基礎・基本の多くは、この時期に取得すべきものです。単数配置がほとんどであるため、実務面に限って言えば、職場内研修は成立しにくい面があります。地域の事務指導員を含む先輩職員の実践から多くを学びます。	事務職員の基礎・基本を踏まえて、実務に自分のものとし、経験も含めて、主体的に職務に取り組み始めます。個々の事務処理を通じて、広く教育行政に目が向き始める時期です。	学校運営に本格的に参画し始める時期です。研修と経験から、企画・立案、判断能力が求められるようになる時期です。	学校における課題、問題に対して柔軟に対応し、解決することができるようになる時期です。校内のみならず、校外との連絡・調整能力も必要とされてくる時期です。	学校事務を熟知し、地域のリーダー的存在として、後輩職員の指針となる時期です。事務部門のトップとして、実力を発揮する時期です。
教育活動を支援する学校財務	実践事例	・財務規則を理解する ・正確な予算執行、会計処理を心がける ・備品の保管状況点検、現状を知らせる ・年間指導計画に目を通す	・前年度の執行データを分析する ・節電、コスト意識の高揚をはかる ・学校予算（公費・私費）全体を把握する ・授業を参観し、必要な教材教具を確認する	・教員の要望に基づいた予算編成をする ・予算委員会を開催する ・予算の執行計画を示す ・予算、執行状況を報告する ・学校徴収金の見直しを図る ・公費、私費負担区分を考える ・学年会計への指導助言をする	・教育目標の実現に向けた予算を編成する ・公費、私費ともに決算報告をおこない、成果・課題を次年度に活かす	・地域住民の要望を聞く ・予算要望等を地教委、校長会へ働きかける ・校内の全予算を統括する ・教員と連絡を密にし、情報を共有し、教育課程に沿った予算編成をする

※ 補職名の説明 主事<行政給料表 (-) 1級又は2級> 主任主事<行政給料表 (-) 3級> 事務主任<行政給料表 (-) 3級> 主査<行政給料表 (-) 4級>